

第6回シンポジウム 『次世代の食品機能性と自然免疫』

日時 平成29年3月24日(金) 13:00~17:45 (12:00受付開始)

場所 笹川記念会館 鳳凰の間 (東京都港区三田3-12-12)

入場料 一般:1,000円 学生:500円 **定員150名:申込先着順**

プログラム

13:00~13:25 開会挨拶

自然免疫制御技術研究組合 代表理事 杉 源一郎
内閣府 政策統括官付 参事官付
農林水産省 農林水産技術会議事務局
経済産業省 商務情報政策局 生物化学産業課
一般財団法人バイオインダストリー協会

13:25~15:15 講演 (前半の部)

座長 杉 源一郎 (自然免疫制御技術研究組合 代表理事・SIP研究代表者)

(13:25~14:20) 「米ぬか由来機能成分を超高齢社会の疾病予防に活かすアプローチ」
益崎 裕章 氏 (琉球大学大学院 教授)

(14:20~15:15) 「食品のホメオスタシス維持機能多視点評価システムの開発
一疾患動物モデルおよび健常人での有用性検証一」
稲川 裕之 (自然免疫制御技術研究組合・SIP研究実施責任者)

15:15~15:25 休憩

15:25~16:20 講演 (後半の部)

座長 杉 源一郎 (自然免疫制御技術研究組合 代表理事)

「時間栄養学と食品機能性」
柴田 重信 氏 (早稲田大学先進理工学部 教授)

16:20~17:40 パネルディスカッション

コーディネーター 阿部 啓子 氏 (東京大学大学院 特任教授・SIP SPD)

益崎 裕章 氏、柴田 重信 氏、稲川 裕之

17:40~17:45 閉会挨拶

自然免疫制御技術研究組合 副代表理事 上田 和男

(本シンポジウム終了後、交流会 (18:00~19:30, 会費5,000円) を開催します)

主催 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「次世代農林水産業創造技術」
「次世代機能性農林水産物・食品の開発」
「ホメオスタシス多視点評価システム開発グループコンソーシアム」
自然免疫制御技術研究組合

共催 (国研)農研機構 生研支援センター

後援 農林水産省、経済産業省、(国研)科学技術振興機構、香川大学、(公財)北海道科学技術総合振興センター、
(予定) (一財)バイオインダストリー協会、(公財)かがわ産業支援財団、四国経済連合会、
(一財)四国産業・技術振興センター、(一財)雑賀技術研究所

◆問い合わせ先

自然免疫制御技術研究組合(中本・乃万・大庭) TEL:(087)813-9201 FAX:(087)813-9203

第6回シンポジウム『次世代の食品機能性と自然免疫』開催にあたり

「自然免疫制御技術研究組合」は、糖脂質(リポ多糖、LPS)等を用いて自然免疫を制御する有用な技術を開発する目的で、平成22年3月8日、経済産業省の認可を受け、全国で12番目、四国では初めての技術研究組合として設立されました。現在、自然免疫活性を制御するさまざまな新規な素材の研究開発に取り組むとともに、自然免疫制御による健康維持戦略の確立に向けリテラシー向上にも力を注いでおります。

加えまして平成26年度には、内閣府の主導する戦略的イノベーション創造プログラム(略称SIP)の大課題の一つとして次世代農林水産業創造事業が設定され、東京大学大学院・阿部啓子特任教授が取りまとめられる「次世代機能性農林水産物・食品の開発」に属する課題「ホメオスタシス維持機能をもつ農林水産物・食品の機能性成分評価手法の開発と作用機序の解明」に採択され、当組合が研究代表機関として研究開発を実施しております。

当組合が取り組むテーマでは、多成分を含む食品や運動の「ホメオスタシス維持機能」の評価には、個体の酸化ストレス抵抗性と異物排除能を高感度かつ低侵襲で総合的に評価できる、ヒト介入試験等で検証された測定システムの開発が不可欠であるとの技術課題に取り組んでおります。そしてホメオスタシス維持に自然免疫力がその一翼を担っていることは疑いのないところです。

日本が長寿国家であることは誇るべきことでありますが、その一方で、高齢化に伴い医療費が増加している事実にも表れているように、必ずしも健康とは言えない状態にある高齢者も少なくありません。超高齢社会において良好なQOLを保つ対策を具体的に提供することは、今後の大きな課題の一つであることは明らかです。その具体的な取組として、食品機能には「自然免疫力」の低下を抑えることで疾患リスクの低減を図り、病気からの回復を早めることなどが期待されており、これらを背景として、食品の自然免疫に働きかける成分は、次世代食品機能性のひとつとして、これにより健康維持に資する研究は広がりを見せています。

こうした中、今回ご案内申し上げます「第6回シンポジウム『次世代の食品機能性と自然免疫』」は、研究成果を広く一般の皆様にご公開するSIP事業のアウトリーチ活動として、健康寿命の延伸と直結する食品機能に着目して開催させていただくもので、講師に琉球大学大学院・益崎裕章教授、早稲田大学柴田重信教授、パネルディスカッションのコーディネーターにSIPのサブプログラムディレクターを務められる東京大学大学院・阿部啓子特任教授をお迎えして、一般から専門にわたる御講演を頂き、続くパネルディスカッションでは会場の皆様にもご参加頂き、活発なご討議を頂くことを企画しています。

本シンポジウムが免疫関連の研究者、予防医療や健康産業に携わっておられる各界の皆様、そして免疫に興味をお持ちの皆様へ、食品機能性と自然免疫に関する研究と開発の現状やこれからの展望を理解していただく機会になるとともに、SIP事業への普及広報につながれば幸いです。

たくさんの方々にご出席を賜りますよう、ここにご案内申し上げます。

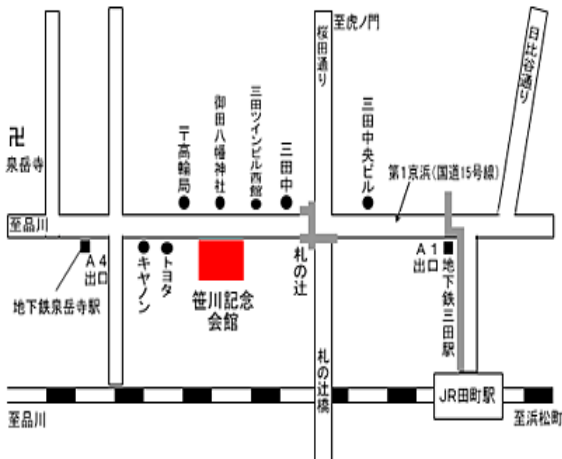
笹川記念会館 アクセスマップ

最寄りの交通機関

- ・都営地下鉄三田線
「三田」駅下車A1出口から徒歩6分
- ・都営地下鉄浅草線
「泉岳寺」駅下車A4出口から徒歩3分
- ・JR山手線
「田町」駅下車三田口から徒歩8分

笹川記念会館

〒108-0073 東京都港区三田3-12-12
TEL 03-3454-5062(代表)



コーディネーター紹介



阿部 啓子 氏

東京大学大学院 農学生命科学研究科 特任教授
(公財)神奈川科学技術アカデミー「未病改善食品評価法開発」プロジェクトリーダー
S I Pサブプログラムディレクター

1969年 お茶の水女子大学家政学部食物学科卒業、1971年 同修士課程修了、アメリカ合衆国デューク大学医学部研究員、1983年東京大学(農学博士)、1992年 東京大学農学部助手、1994年 東京大学大学院農学生命科学研究科助教授、1996年 同教授、2008年 神奈川科学技術アカデミー KASTプロジェクトリーダー(現在に至る)、2010年 東京大学 名誉教授・ILSI Japan 寄付講座「機能性食品ゲノミクス」、日清食品寄付講座「味覚サイエンス」特任教授(現在に至る)

受賞:2005年度 安藤百福賞大賞、2007年 日本農芸化学会賞、2009年 アメリカ化学感覚学会IFF賞、2010年 紫綬褒章、2010年 日本味と匂学会賞

専門分野:食品科学、味覚科学、遺伝子科学

所属学会:日本農芸化学会、日本栄養・食糧学会、日本生化学会、日本味と匂学会、日本分子生物学会、日本予防医学会、日本機能性食品医学会、アメリカ化学会、国際化学感覚学会、国際栄養学会など。

講演者紹介



益崎 裕章 氏

琉球大学大学院 医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座
(第二内科) 教授

1989年 3月 京都大学医学部 卒業

1996年 3月 京都大学大学院 医学研究科 博士課程修了 医学博士(分子医学専攻)

1999年10月 京都大学医学部 第二内科助手

2000年 4月 ハーバード大学医学部 招聘博士研究員・客員教授(Co:医学部長Jeffrey S.Flier教授)

2008年 7月 京都大学内分泌代謝内科 講師

2009年10月 琉球大学大学院医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病 内科学講座(第二内科)教授

2014年 1月 琉球大学医学部附属病院 副病院長

琉球大学医学部附属病院 栄養管理部長、医師キャリア支援センター長

2015年 4月 琉球大学医学部 副医学部長 現在に至る



柴田 重信 氏

早稲田大学先進理工学部 電気・情報生命工学科 教授

1976年 3月 九州大学薬学部 卒業

1981年 3月 九州大学薬学研究科 博士課程 単位取得退学

1981年 4月 日本学術振興会 奨励研究員

1982年 1月 九州大学薬学部助手

1982年 2月 薬学博士(九州大学)

1985年11月 ニューヨーク州立大学 Research Associate

1987年11月 米国より帰国

1995年 1月 九州大学薬学部助教授(薬理学)

1995年 4月 早稲田大学人間科学部 助教授

1996年 4月 早稲田大学人間科学部 教授

2003年 4月 早稲田大学理工学部 電気・情報生命工学科 教授

2006年 4月 早稲田大学先進理工学部 電気・情報生命工学科 教授

2009年 4月 東京農工大学 客員教授

2011年 6月 東京女子医科大学 客員教授 現在に至る



稲川 裕之

自然免疫制御技術研究組合 研究開発本部長
S I P「ホメオスタシス多視点評価システム」研究実施責任者
香川大学医学部統合免疫システム学講座 客員准教授

埼玉大学工学部卒業。薬学博士。水産大学校准教授を経て、2011年より現職。

比較免疫学的研究視点ですべての生物の健康に興味を持ち、難治性疾患予防・治療の研究を、食細胞を基軸に30年間続けている。また、グラム陰性菌のLPSが極めて有用なことを25年前に見出し、以来LPSの基礎と実用化について研究を展開している。

座長紹介



杉 源一郎

自然免疫制御技術研究組合 代表理事
S I P「ホメオスタシス多視点評価システム」研究代表者

東京大学薬学部卒業。1983年東京大学薬学博士、帝京大学生物工学研究センター助教授、教授、1989年同センター副所長。2000年徳島文理大学健康科学研究所教授、同大学院教授を歴任、2007年より香川大学医学部統合免疫システム学講座客員教授、2014年より新潟薬科大学特別招聘教授を兼任。

申込期限：3月20日(月)

第6回シンポジウム『次世代の食品機能性と自然免疫』参加申込書

参加ご希望の方は、以下の太線枠内に必要事項をすべてご記入の上、FAXまたは電子メールにてお申し込みください(個人で参加される方は、連絡先とお名前のみご記入ください)。

★先着順にてお申込の受付を致します。席に限りがございますので、定員に達した場合はお断りさせて頂く場合もございます。予めご了承下さい。

企業・団体・大学名		
連絡先	TEL:	FAX:
	電子メールアドレス: ※アンダーバー()とハイフン(-)の違いにご注意ください。	
	ホームページURL:	

お名前	所属・役職	交流会【18:00~19:30】 (どちらかに○を付けて下さい。)
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加
		参加 ・ 不参加

◆事務局よりのご案内

本シンポジウム終了後、同会場5階レストラン菊にて「交流会」(会費:5,000円※)を開催します。奮ってご参加下さい。
(※当日、受付でお支払下さい)

◆お申し込み先◆

FAX:(087)813-9203 / 電子メール:ciitra@shizenmeneki.org

本シンポジウムを知ったきっかけ (☑を入れてください)	<input type="checkbox"/> 本組合ホームページ	<input type="checkbox"/> シンポジウムちらし
	<input type="checkbox"/> 知人・取引先の紹介	<input type="checkbox"/> 新聞記事(新聞名:)
	<input type="checkbox"/> その他()	

※ご提出いただいた個人情報は、本シンポジウムの目的以外には使用いたしません。

◆問い合わせ先

〒761-0301 香川県高松市林町2217-16 FROM香川 バイオ研究室

自然免疫制御技術研究組合(中本・乃万・大庭) TEL:(087)813-9201 FAX:(087)813-9203